

会場：オンライン（Zoom）

参加者：延べ150名

#### ●関東支部

見学会「シリーズ名作をみるー日本女子大学 図書館・百二十年館・杏彩館」

主催：日本建築学会関東支部

日時：10月3日（木）13:30-15:30

見学先：日本女子大学目白キャンパス 図書館・百二十年館・杏彩館

参加者：42名

#### 構造デザインフォーラム 2024（第29回）

「時をつむぐ建築・構造」

主催：日本建築学会関東支部構造専門研究委員会

日時：11月12日（火）15:00-18:00

会場：建築会館会議室およびオンライン

参加者：107名（うちオンライン47名）

#### ●東海支部

見学会「建築ウォッチングー最先端の建築生産・施工技術に関する現場見学会」

主催：日本建築学会東海支部事業委員会

日時：11月16日（土）13:00-15:00

見学先：（仮称）錦通桑名町ビル新築工事現場

参加者：21名

#### ●北陸支部

第5回 地域再生・活性化の建築力シンポジウム「AR・VRを活用したまちづくり」

主催：日本建築学会北陸支部福井支所

日時：9月28日（土）14:00-16:00

会場：福井大学総合研究棟IV 2階 223L 講義室およびオンライン

参加者：36名（うちオンライン25名）

#### とやまたてもの探偵団 2024

見学会「YKKのまちづくり・住まいづくりを学ぶ」

主催：日本建築学会北陸支部富山支所

日時：10月1日（火）9:00-17:00

見学先：パッシブタウン、I-TOWN、K-TOWNほか

参加者：19名

#### 第13回 越前・若狭の建築文化探訪

見学会「武生の歴史的街並み散策」

主催：日本建築学会北陸支部福井支所

日時：10月5日（土）13:30-15:30

見学先：武生周辺の街並み

参加者：16名

見学会「小松の“石”の産地を巡るー観音下町と滝ヶ原町の過去と現在、そして未来」

主催：日本建築学会北陸支部石川支所

日時：10月12日（土）10:00-夕方頃まで

見学先：観音下石切り場、滝ヶ原石切り場とその周辺

参加者：16名

#### ●近畿支部

近代建築見学会およびシンポジウム「増田友也設計「衣笠山の家」」

主催：日本建築学会近畿支部近代建築部会

後援：リビングヘリテージデザイン

日時：2024年10月14日（月・祝）13:30-17:00

見学先および会場：衣笠山の家

参加者：46名

#### ●中国支部

見学会「中高層木造建築物の構法開発と木質構造の可能性について」

主催：日本建築学会中国支部材料施工委員会

日時：10月5日（土）10:00-12:00

会場：近畿大学工学部メディアセンターH120教室および近畿大学工学部構造実験棟およびオンライン

参加者：87名（うちオンライン57名）

#### ●四国支部

フォーラム「移住の視点から考える：住居、くらし、コミュニティ」

主催：日本建築学会四国支部

日時：10月5日（土）13:30-16:30

会場：こめっせ宇多津およびオンライン

参加者：96名（うちオンライン66名）

#### ●九州支部

講演会・見学会「芦原義信氏の八代市厚生会館の歴史的価値について再考する」

主催：日本建築学会九州支部熊本支所

共催：熊本まちなみトラスト

後援：日本建築家協会九州支部熊本地域会、熊本高等専門学校

日時：10月19日（土）12:00-17:00

見学先：八代市厚生会館、松浜軒、澤井家住宅、八代市立博物館未来の森ミュージアム、八代城跡、八代市民俗伝統芸能伝承館ほか

参加者：59名

#### 第24回 司法支援建築会議講演会

「近年の調停の動向

ー裁判所調停を中心にー」

第24回司法支援建築会議講演会は、2024年12月17日（火）13時から建築会館ホールとオンラインの併用で行われた。テーマは、「近年の調停の動向ー裁判所の調停を中心にー」であり、参加者は対面28名、オンライン45名の計73名、司会・進行は眞方山美穂（普及・交流部会／建築研究所）が担当した。

1. 開会挨拶 吉野博（司法支援建築会議運営委員会委員長／東北大学名誉教授）

吉野委員長は、日本建築学会司法支援建築会議の目的について話され、その組織や活動内容についての説明とともに、本日の抱負を話された。

2. 主旨説明 井上勝夫（司法支援建築会議普及・交流部会／日本大学名誉教授）

井上部会長より、講演会的主旨説明がなされた。まず、住宅リフォーム紛争処理支援センターに寄せられた年間約3.5万件の相談事例のうち、「戸建住宅」「共同住宅」別に多い項目の洗い出しと、これまでの「建築紛争フォーラム」

や「司法支援建築会議講演会」で取り上げられたテーマの中から、事例の多い「地盤」・「防水」・「音環境」・「結露を含む熱環境」の4項目を選定し、今回の主題解説をお願いしたことが説明された。また、基調講演は、東京地方裁判所の安見判事にお願いしたことが紹介された。さらに、本日ご参集いただいた方々から意見や質問、提案等をいただき、各種建築紛争の解決に向けた具体的な討論ができることを願っている旨の説明がなされた。

3. 基調講演「建築紛争解決における調停の重要性～専門家調停委員と裁判官の協働～」 安見章（東京地方裁判所裁判官）

安見判事より、まず、1922年の借地借家調停法以来の調停制度100年の節目を迎えた「建築紛争と調停」について説明がなされた。東京地裁民事第22部では、建築紛争解決の手段として判決や和解に比べ調停の割合が61%と、全国平均の約21%に比べてはるかに多いこと、専門家調停委員と裁判官の協働が機能していることが説明された。また、本日のテーマに関する具体的な紛争解決の事例を紹介いただき、調停の重要性や調停委員と裁判官の役割などさまざまな説明がなされた。

4. 主題解説（近年の調停の事例と動向）

調停委員経験者等により、それぞれの専門分野からの主題解説をいただいた。

4-1 「地盤に関わる調停事例と今後の対応」 藤井衛（東海大学名誉教授）

藤井氏より、経験されてきた調停事例にもとづき、調停委員としての心構えなどについて説明がなされた。地盤・基礎のトラブルでは、原因究明の難しさや責任の所在の不明さなど解決に時間がかかること、「近接工事」・「造成地盤」・「擁壁」の3つの事例を紹介され、トラブルの原因や調停委員の行うべき事項や心構えについて説明された。

4-2 「防水に関わる調停事例と今後の対応」 田中亨二（東京工業大学名誉教授）

田中氏より、経験されてきた調停事例のもとに、紛争の原因や傾向について説明がなされた。これまでの経験から外壁、地下、木造やパネルなど10の事例について紹介があり、防水が紛争となる理由や原因について詳しく解説された。また、それらを踏まえて最近の傾向についても説明がなされた。

4-3 「音に関わる調停事例と今後の対応」 中澤真司（鉄建建設）

中澤氏より、音に関する調停の傾向や日本建築学会の遮音性能基準、公開されている裁判判例について説明がなされた。調停の傾向については、損害賠償請求に発展することもあり、設計図書などの契約書類への記載が重要なことが説明された。また、学会の遮音性能基準と生活実感の対応などが詳しく説明された。さらに、2つの裁判判例において、特に受忍すべき判断について説明され、学会基準と判例の関係などが詳しく説明された。

4-4 「熱環境に関わる建築トラブルと今後の対応」 羽山広文（北海道大学名誉教授）

羽山氏より、水の性質・水に関するトラブルについての説明がなされた。経験された6つの



意見交換の様子

トラブル事例について、発生状況や概要、事例にもとづき実施された実験結果など多方面からの原因究明やその対策について詳しく説明された。また、建築紛争回避のためには事例の共有が必要であるが、対策事例などが調停では非公開となる弊害も指摘された。

#### 5. 意見交換 進行 眞方山美穂（前掲）

司会者の投げかけにこたえる形で意見交換が行われた。討論内容は以下のとおり。

- ・裁判官との協働については、調停委員1名に基本裁判官1名であり、調停委員会は2名以上とされている（上限規定はない）（安見氏）。
- ・地方での調停委員会の人員については、東京から派遣の場合もあり、WEB会議の可能性が示唆された（安見氏）。
- ・地盤については、建築の専門家だけの人員では対応できない部分もあり、土木技術者の応援が必要とされる（藤井氏）。
- ・防水については、設計者と発注者の関係において、設計者の責任を明確にすることが必要であり、調停には協調が必要である（田中氏）。
- ・音については、評価尺度の理解が必要で（中澤氏）、施主の要求性能の明確化も必要となる（井上氏）。
- ・結露については、使用条件を設計時に十分考慮すること。水量や排気量の想定も必要となる（羽山氏）。
- ・建築紛争の解決において、調停事例は非公開が原則であるが、裁判事例は閲覧可能である（安見氏）。消費者の責任として、入居後のモニタリングの実施も必要となってくる（中澤氏）。
- ・まとめとして、音は判断する数値がはっきりしている、結露も事実は明白である。地盤と防水は不明瞭で、解決に地盤判定士などの参加が求められる（藤井氏）。一方、音の基準は一般には普及していないこともあり、消費者への教育も重要となる（井上氏）などが話された。

#### 6. まとめ・閉会 山本康友（司法支援建築会議普及・交流部会／東京都立大学）

山本氏より、シンポジウムのまとめが話された。

基調講演、主題解説、日本の調停の傾向と事例など、各主題解説の発表内容について、簡潔にまとめられた。

梅本宗宏

戸田建設